

(別添)

整理番号 H20 - 15

(費用対効果分析説明資料)

事業名	国道改築事業	地区名等	国道338号五所川原北バイパス
-----	--------	------	-----------------

【費用対効果の算定内容】

1 費用対効果の算定根拠

算定の考え方は『公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針』(平成16年2月国土交通省策定)による。また、具体の算定手法については『費用便益分析マニュアル』(平成15年8月国土交通省 道路局 都市・地域整備局)によった。

本マニュアルにおいては、社会的余剰を便益(B)とし、整備に係る総費用及び維持修繕費を現在価値に割り引いたものを費用(C)として評価するものである。

再評価においては、技術指針の考え方により、「事業全体の投資効率性」と、再評価時点までに発生した既投資分のコストや既発現便益を除いた「残事業の投資効率性」の両者による評価をするものとした。

2 事業全体の投資効率性

(1) 道路整備に要する費用(便益を算出する事業延長L = 5.24km)

C: 総費用 = 10,371百万円

総費用算出根拠

道路整備に要する費用から用地取得に要する費用を除いたものに、供用後40年間の維持管理費を加えたものを現在価値化したもの。

(単位:百万円)

区分	事業費	用地費	維持修繕費	総費用 - +
費用	9,360	1,036	1,572	9,896
現在価値	9,992	146	525	10,371

(2) 道路整備による便益

B: 総便益 = 16,862百万円

総便益算出根拠

道路整備によりもたらされる社会的余剰として、整備後40年間、各項目について整備があった場合の費用から整備が無かった場合の費用を除いた額を便益として、それぞれ現在価値化したものの合計。

(単位:百万円)

区分	走行時間短縮	走行費用減少	交通事故減少	総便益 + +
便益	45,580	2,917	1,088	49,585
現在価値	15,499	993	370	16,862

3 残事業の投資効率性(便益を算出する事業延長L = 3.24km)

(1) 道路整備に要する費用

C: 総費用 = 2,824百万円

総費用算出根拠

道路整備に要する費用から用地取得に要する費用を除いたものに、供用後40年間の維持管理費を加えたものを現在価値化したもの。

(単位:百万円)

区分	事業費	用地費	維持修繕費	総費用 - +
費用	3,329	240	960	4,049
現在価値	2,537	34	321	2,824

(2) 道路整備による便益

B: 総便益 = 14,158百万円

総便益算出根拠

道路整備によりもたらされる社会的余剰として、整備後40年間、各項目について整備があった場合の費用から整備が無かった場合の費用を除いた額を便益として、それぞれ現在価値化したものの合計。

(単位:百万円)

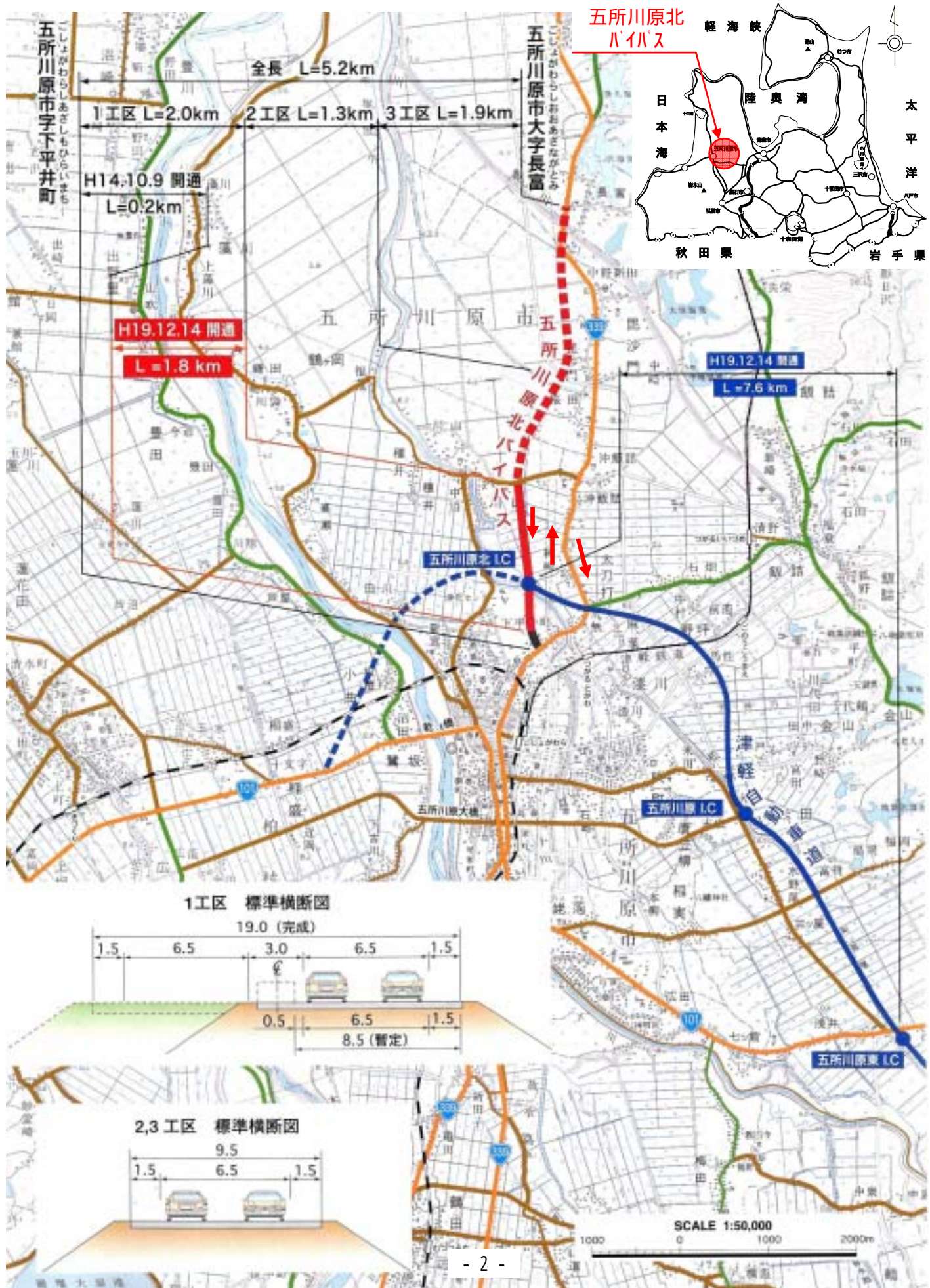
区分	走行時間短縮	走行費用減少	交通事故減少	総便益 + +
便益	37,268	2,997	1,331	41,596
現在価値	12,684	1,022	452	14,158

【費用対効果分析の結果】

B / C (再評価時点・事業全体) = 16,852百万円 / 10,371百万円 = 1.63

B<sub>i</sub> / C<sub>i</sub> (再評価時点・残事業) = 14,158百万円 / 2,824百万円 = 5.01

# [全体計画図]





## [現道の交通状況]



国道339号現道

五所川原市内方向へ、慢性的な混雑が発生している。



国道339号現道

五所川原市内方向へ、慢性的な混雑が発生している。



国道339号五所川原北バイパス

津軽北部地域から五所川原市内、津軽自動車道インターチェンジへのアクセス向上が図られる。

写真は一部供用済み区間